

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校		平成8年3月4日		瀧口 博俊		〒 802-0001 (住所) 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程		コンピュータシステム科		平成18(2006)年度		-	平成26(2014)年度		
学科の目的										
コンピュータのスペシャリストとしてIT時代をリードする人材となるために、プログラムの基礎から応用まで幅広く学習し、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるコンピュータエンジニアを目指す。										
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)										
教育内容:IT業界でコンピュータエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につける。 取得可能な資格:基本情報技術者試験、情報検定 情報活用試験、サーティファイ Javaプログラミング能力認定試験 等										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入			1,734 単位時間	884 単位時間	850 単位時間	0 単位時間	0 0	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
60 人	28 人		0 人		0%		6 %			
就職等の状況	■卒業者数(C) : 26 人									
	■就職希望者数(D) : 26 人									
	■就職者数(E) : 26 人									
	■地元就職者数(F) 7 人									
	■就職率(E/D) : 100 %									
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 27 %									
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100 %									
	■進学者数 0 人									
	■その他									
	就職指導内容:担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、個別相談を行うとともに、保護者等への就職説明会を実施している。									
第三者による学校評価	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)									
	■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) (株)ゼンリンマップテック、CTCシステムマネジメント(株)、(株)Retail AI、ナビオコンピュータ(株)、(株)IJJエンジニアリング、コベルコンソフトサービス(株)、(株)ニシコンほか									
当該学科のホームページURL	■民間の評価機関等から第三者評価: 無									
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL									
https://asojuku.ac.jp/abkc/cs/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					1,734 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					120 単位時間				
	うち必修授業時数					1,734 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					120 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した演習の単位数					単位					
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					1 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。また、本校では専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、就職先企業に対しお客様アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
岩下 健一郎	北九州市産業経済局企業誘致部企業誘致課 IT産業誘致担当係長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	①
三宅 康夫	㈱フツコ コンサルティング統括部 アカウントコンサルティングサービス部シニアコンサルタント	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	③
赤星 直樹	ギグワークス クロスアイティ㈱ 九州システム部 担当部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	③
有田 秀之	バリエントソフト㈱ 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	③
前園 勝稔	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 主任	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
矢鳴 信輔	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 サブリーダー	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
津田 徳子	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
二田水 俊彦	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
石田 典雅	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月12日(水) 17:50～18:20

第2回 令和6年11月20日(水) 16:50～17:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

従来より専門学校新卒のプログラミングスキルの低下がみられる。就職活動まで1年もないというスケジュール的な制約があり、プログラム実習よりも資格重視となってしまう傾向がある為、少しでもプログラミングスキルを上げるため、ベンダー資格取得への取り組みを開始した。資格受験料が高額な為、希望制での受験となったが合格者は数名出た。また、学修する開発言語が多すぎるという課題が議題に上がったが、業務や企業によって言語が多岐にわたる状況もあり、基本の柱となる言語はJavaとし、他の言語を大幅に削減するのではなく初歩だけでも良いので触れて欲しいというご意見を委員よりいただいた。言語の数は現状維持としたが、授業内でのプログラミングを行う時間の割合を増やすことで対応するようにカリキュラムを変更。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術（業務システム開発に関わる最新の技術）を学ぶ授業を、企業連携により計画、実施していく。企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とすることにより、狭い意味での技術だけではなく、企業における開発手法、企業が求める技術レベル、業務に取り組む姿勢等も学ばせる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

最新技術とともに、企業における開発手法、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ぶことを目的とした科目となるよう、企業から派遣される講師と本校教員が、授業開始前に授業内容、授業方法、評価方法などについて打ち合わせを行い、シラバス（授業計画）を合同で作成する。実際の授業は本校教員が主となって行うが、適宜、企業からの講師にも担当いただき、授業の進捗や学生の状況については、意見交換しながら進めていく。また、評価についても、出来上がった作品の技術だけを問うのではなく、開発の過程や取り組み姿勢も評価できるような評価基準を企業と連携して設定する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	個人またはチーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行う。この科目では主に制作物の企画立案から各種設計を中心に行う。	株式会社キャッチテクノ
卒業研究Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	2年間の専門教育の集大成として、アプリケーション開発の製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。	株式会社キャッチテクノ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	CEDEC+KYUSHU 2024	連携企業等：	CEDEC+KYUSHU 2024実行委員会
期間：	2024年11月23日（土）	対象：	教員1名
内容	プログラミング、ゲーム開発環境、サーバー構築、ネットワーク環境、プロジェクト進行についての講演を始めとするデジタルエンターテインメント技術の講演		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	セルフマネジメント～困難な状況でも平静を保つために～	連携企業等：	オフィス シックスエイト
期間：	2024年8月30日（金） 13:30～16:30	対象：	教員1名
内容	困難な状況においても、平常心を保って適切な対応ができるようになるために、具体的には事実を単なる事実としての確に捉え、自分の中に沸き起こる感情に惑わされることなく、判断し対応する方法を学ぶ。自分自身のケースを題材としながら、演習と対話を中心に進める。		
研修名：	コーチング実践 ～多欠席学生対応編～	連携企業等：	組織デザイン・ラボ
期間：	2024年6月19日（水） 16:00～17:30	対象：	教員1名
内容	欠席しがちで、やる気が落ちている学生の対応事例を使って効果的な質問を作り実践する。		
研修名：	Z世代のメンタルヘルス	連携企業等：	うえむらメンタルサポート診療所
期間：	2024年8月22日（木） 14:00～15:30	対象：	教員1名
内容	デジタルネイティブの環境で育ったZ世代と呼ばれる彼らが社会に出てきたこの数年、社会不適応の様々な病態と発達障害の増加という変化が見られ、彼らの多くに自己肯定感の乏しさと不安の強さが見られる。研修ではこうした心理発達と社会適応について考える。		

(3) 研修等の計画																									
① 専攻分野における実務に関する研修等																									
研修名： THE JOURNEY サイボウズ様から学ぶ、脆弱性診断の自動化術 期間： 2025年8月26日(火) 14:00～14:30 内容 グループウェアで有名なサイボウズ様がどのようにして脆弱性対策を効率化できたのか、生成AIを使った具体的な事例をもとに、その方法をご紹介しますセミナー	連携企業等： 株式会社エーアイセキュリティラボ 対象： 教員1名																								
② 指導力の修得・向上のための研修等																									
研修名： 教育とハラスメントの境界線 ～アカハラとカスハラを学ぶ～ 期間： 2025年8月20日(水) 15:00～16:30 内容 アカデミックハラスメントの定義や具体的な事例を通して、指導時に注意すべきポイントを学ぶ。あわせて、カスタマーハラスメントの実態や対処法について理解を深め、ハラスメントを未然に防ぐための対策について考える。	連携企業等： 吉田総合法律事務所 対象： 教員1名																								
研修名： 高等教育機関における合理的配慮 期間： 2025年8月27日(水) 15:30～17:30 内容 教職員が知っておくべき合理的配慮の基本的な内容を学ぶ。誤解されやすいポイントや要点として知っておくべき点を知り、発達障害をベースに、様々な状態像の学生のケースを通じて理解を深める。	連携企業等： 有吉祐睡眠クリニック 対象： 教員1名																								
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th><th>学校が設定する評価項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td><td>法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他</td></tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td><td>運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他</td></tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td><td>業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他</td></tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td><td>教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他</td></tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td><td>修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他</td></tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td><td>教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他</td></tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td><td>APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試</td></tr> <tr> <td>(8) 財務</td><td>財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開</td></tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td><td>専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他</td></tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td><td>社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他</td></tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td><td>留学生の受入れ、支援体制</td></tr> </tbody> </table>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他	(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他	(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他	(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他	(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他	(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他	(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試	(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開	(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他	(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他	(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他																								
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他																								
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他																								
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他																								
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他																								
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他																								
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試																								
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開																								
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他																								
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他																								
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 課外活動の実施に関して時間割等の学科間の隔たりが大きく、後期の実施が出来なかった点に指摘をいただいた。学科を越えた課外活動の一環として、運動サークルを立ち上げバドミントン、バレーボールなど毎月別の種目で実施。いままで学科間の学生の交流がなかったが、学科を越えた学友が出来たり、1年生と2年生で関係性が築かれるケースが見られた。また出席率が芳しくない学生が積極的に参加するケースもあった。今後も継続して行い、登校しやすい環境を作ることによって学校満足度の向上を目指していきたい。																									

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
徳永 由紀子	福岡県立小倉商業高等学校 校長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	高等学校関係者
野田 武志	ゲームクリエイタ科2年生の保護者	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	保護者等
佐伯 京子	地域住民代表	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域住民
川端 君佳	オフィスビジネス科令和2年度卒業生	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
三宅 康夫	(株)フック コンサルティング統括部 アカウントコンサルティングサービス部シニアコンサルタント	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
赤星 直樹	ギグワークス クロスアイティ(株) 九州システム部 担当部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
森田 良一	バリアントソフト株式会社 会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
河上 和弘	(株)ジーン 人事部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
梅本 周作	(株)アジケ 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 洋平	(株)パソナ YBS事業部 特定法人営業課長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
木ノ下 五郎	社会医療法人北九州病院 北九州総合病院 事務部 課長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2025/hyoka.pdf>

公表時期: 令和7年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、特色
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/abkc/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程コンピュータシステム科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎理論	基本情報技術者試験にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ。	1前	46		○			○			○	
2	○			アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。	1前	76		○			○			○	
3	○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ。	1前	46		○			○		○		
4	○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ。	1前	60		○			○			○	
5	○			データベース	基本情報技術者試験にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ。	1前	46		○			○		○		
6	○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ。	1前	30		○			○		○		
7	○			プログラミング言語Ⅰ	Javaの基本文法とプログラミングの基本構造や基礎を学ぶ。	1前	60			○		○		○		
8	○			情報処理活用Ⅰ	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ。	1前	30			○		○			○	
9	○			GCBⅠ	グローバルシチズンベーシックⅠ（感謝心と思いやり）について学ぶ。	1前	16		○			○		○		
10	○			アルゴリズムⅡ	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする。	1後	76		○			○			○	
11	○			テクノロジー基礎	基本情報技術者試験にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ。	1後	90		○			○			○	
12	○			プログラミング言語Ⅱ	Javaやオブジェクト指向のついて、知識を学びプログラムが組めるようにする。	1後	76			○		○		○		
13	○			情報処理ベーシックⅠ	春受験の国家試験対策授業	1後	60		○			○		○	○	

(工業専門課程コンピュータシステム科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
14	○			情報処理活用Ⅱ	Excelの関数やグラフ機能など、知識と技術を学ぶ。	1後	30			○		○			○	
15	○			プログラミング基礎演習	Javaを使用して実際にアプリケーションを作成すること事でプログラミング技術を習得する。	1後	30			○		○		○		
16	○			SQLⅠ	SELECT文の文法と使用方法を演習を通じて習得する。	1後	30			○		○		○		
17	○			オブジェクト指向Ⅰ	Microsoft社のVisualStudioを使い、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ。	1後	46			○		○		○		
18	○			一般教養Ⅰ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	1後	16		○			○			○	
19	○			ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ。	1後	16		○			○			○	
20	○			就職実務Ⅰ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う。	1後	30		○			○		○		
21	○			情報処理ベーシックⅡ	春受験の国家試験対策、直前授業	2前	76		○			○		○	○	
22	○			情報処理ベーシックⅢ	秋受験の国家試験対策授業	2前	30		○			○		○	○	
23	○			実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ。	2前	16			○		○			○	
24	○			Linux基礎	Linuxのコマンドの仕様と使用方法を習得する。	2前	46			○		○			○	
25	○			SQLⅡ	INSERT文、DELETE文の文法と使用方法およびテーブルの作成方法などの高度な操作を習得する。	2前	30			○		○		○		
26	○			オブジェクト指向Ⅱ	Microsoft社のVisualStudioを使い、C#のプログラミングをより深く学ぶ。	2前	30			○		○		○		
27	○			フロントエンド開発演習Ⅰ	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ。	2前	46			○		○		○		

(工業専門課程コンピュータシステム科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28	○			WebプログラミングⅠ	PHPを使用したサーバーサイド・プログラミングの基礎を習得する。	2 前	46			○		○		○		
29	○			一般教養ⅡA	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	2 前	16		○			○			○	
30	○			文章表現	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ。	2 前	16		○			○			○	
31	○			GCBⅡ	グローバルシチズンベーシックⅡ（志をたてる）について学ぶ。	2 前	16		○			○		○		
32	○			就職実務Ⅱ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う。	2 前	46		○			○		○		
33	○			情報処理実践スキル	秋受験の国家試験対策、直前授業	2 後	60		○			○		○	○	
34	○			データベース演習	Microsoft Accessを使い、データベースの操作方法を学ぶ。	2 後	16			○		○			○	
35	○			ビジネスツール演習	MicrosoftExcel上でのVBAについて学び、表計算上でのプログラミングを学ぶ。	2 後	16			○		○			○	
36	○			フロントエンド開発演習Ⅱ	JavaScriptやjQuery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ。	2 後	60			○		○			○	
37	○			WebプログラミングⅡ	PHPを使用して実際にWebシステムを構築する事で実践的なWebプログラミング技術を習得する。	2 後	46			○		○		○		
38	○			スマートフォンアプリ開発	スマートフォンで動作するアプリ開発を行い、実践的な開発技術を習得する。	2 後	46			○		○		○		
39	○			システム設計	Webシステム開発を題材に、設計や設計書の作成を習得する。	2 後	30			○		○		○		
40	○			一般教養ⅡB	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	2 後	16		○			○			○	
41	○			卒業研究Ⅰ	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ。	2 後	30			○		○		○	○	○

(工業専門課程コンピュータシステム科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
42	○			卒業研究Ⅱ	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ。	2 後	90			○		○		○	○	○
合計						42	科目	1734			単位時間					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： (1) 当該学科の修業年限以上在学していること (2) 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けていること (3) 卒業基準検定を取得していること (4) 学年の出席率が90%以上であること 以上の要件に該当しない者は、卒業判定会議により判定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：学則に定める教育課程に基づき指定された必須科目を全て履修する。	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。